

平成29年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成29年6月17日（土）

午前9時～午後5時30分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、兼平委員、西川委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、木田委員
市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、對馬主幹、中村係長、齋藤主査、福土主事、阿保主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
(7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答)
2. 審査 …20分程度
(事業内容・金額について審議後、採点表に記入)
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

（公開プレゼンテーション無）

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

【審査項目】

審査項目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている

実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

- 9：くるくる運動プロジェクト／特定非営利活動法人 もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今回の事業内容を、具体的に説明していただきたい。

A：参加費と資源ごみを会場に持参していただき、参加者の希望するコンポスト（段ボール、袋、牛乳パックのいずれか）と商品券引換券を渡す。自宅に持ち帰り、作業をしていただき、後ほどできた生ごみたい肥を会場に持参した人に商品券を差し上げる。

Q：より簡単な方法で、市民の興味を引くような事業展開の方が良いと思うが、団体ではどのように考えているか。

A：東京では町会・子ども会の集団回収が青森県より3割低いので、理由を聞いてみたところ、スポーツ団体のために寄付金代わりに集団回収を行っていることがわかった。生ごみ堆肥化も義務的に行うのではなく、実施することで当事者にメリットがあるかたちにして、より普及させていく必要があると考えている。

【主な意見】

- ・生ごみは家庭で堆肥化できる資源であり、生ごみ堆肥化を進めることでごみの減量化・地球温暖化防止につながることを啓発していくという活動理念には賛同しますが、市民が興味を持ち、活動に参加しやすくなるよう、内容・方法を検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 57.5 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.6
合 計		57.5

● 3 : 防災・地域づくり・地域世代間交流事業

「第1回 西部仲町 自主防災会 避難訓練事業」／西部仲町自主防災会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今回の訓練は、どのような災害が起こったことを想定して行うのか。

A : 今回は町会の真ん中を流れている堰があふれたことを想定して訓練を行う。2年間除雪隊を組んでボランティアを実施してきた若党町と春日町・西城北といった堰を挟んだ両側の町会が、災害の時にどのように動いてくれるかを確認したいと考えている。

Q : 防災訓練単体では参加者が集まりづらいという例もあるが、お盆の8月14日に開催することで、町会の住民がどの程度、参加してくれると想定しているか。

A : アパート住まいの人を除く約200人のうち、半分の約100名を災害時の要保護者と考えている。その人たちには、あらかじめ避難方法や避難経路、時刻などをお知らせし、それに合わせて担当者が対応する。また、同日夕方に納涼祭を実施するので、準備を兼ねて若者にも避難訓練に参加するように話をしている。

【主な意見】

- ・一人暮らしの世帯を事前に巡回して確認していることや、役員の誰がどの世帯を担当するかなど、きめ細やかな部分まで配慮していることについて感心した。継続していく上で、より多くの住民に参加してもらえるように頑張っていただきたい。
- ・今回は最初の段階ということで、消防団や看護師、交通誘導に対する謝礼を予算計上しているが、訓練を通して町会の人々がノウハウなどを身に付けることで、予算の削減も見

込まれる。また、ずっと続けていかなければならない事業なので、町会事業として計画に組み込んで、少しずつ予算を出していくことも今後必要になってくると思う。

- ・細かく念入りに計画を立てているので、町会関係の会合等で事例として発表していただいて、他町会の模範になっていただきたい。

【採択結果】

合計点 76.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合計		76.0

● 14：大沢サマーフェスティバル／大沢サマーフェスティバル実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：サマーフェスティバルと防災訓練の二本立てということだが、防災訓練のタイムスケジュールを教えてください。

A：防災訓練は公民館の消防訓練を兼ねており、まず午前10時から消火通報避難訓練を行う。消火通報避難訓練終了後から午後2時まで、炊き出し訓練などを行う予定であり、ドローンに関しては、はっきりとしたイメージはついていないが、どのように撮影できるのかなど、これから確認したいと思っている。

Q：実際に土砂災害が起こった場合、救出や避難経路の確保など、素人だけでは難しい部分もあると思うが、専門家のアドバイス等を受けられる予定はあるか。

A：今年度、土砂災害を想定した市の防災訓練が行われる予定になっている。市や県と我々の自主防災会の活動の線引きや、位置付けを確認しながら進めていく予定である。

Q：ドローンについて、今回は、試験的に専門業者に依頼しているということだが、将来的に、スタッフや町会の人オペレーターとなり、災害時に役立つような展開は考えてい

るか。

A：当地区は農業地帯であり、りんごや田んぼへの薬剤散布にラジコンヘリコプターを使用しているが、ドローンを活用する動きになってきているので、将来的にはその技術が災害時にも応用できるようになると考えている。

【主な意見】

- ・事前質問の回答に、防災用の町会名簿を作成していきたいという記載があるが、作成することで災害時に役立つと思うので、ぜひ実行していただきたい。
- ・これだけの若い人たちが組織的に動いており、これからの地域を支えていこうという意気込みが感じられる。
- ・次年度以降も防災訓練は確実に実行されるようなので、例えば実行委員会名簿に自主防災組織が含まれているなど、実行委員会と自主防災との確実な関わりがわかるような組織を作っていたほうが良いと感じた。

【採択結果】

合計点 72.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.9
合計		72.2

● 29：藤代地域「お山参詣」実施事業／NPO法人 藤代地域ふれあいの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：新たにお山参詣を始めて、地域に根付かせるためには相当の準備が必要になると思うが、実施前に情報を共有する時間や、勉強する時間を作ることは考えているか。

A：まず、物品については本格的なものをそろえると高価になるので、ホームセンターなどで売っているものを活用しながらできる限り経費削減に努める。この事業を行ったことによる効果はまだわからないが、住んでいる地域が現状のままであるのも非常に残念なこ

となので、なんらかのきっかけを掴むためにも、活動は実施していきたいと思っている。

Q：お囃子については具体的にどのように対応するのか。

A：笛や太鼓を演奏できる囃子組を呼んで、当日の演奏と練習時の子ども達への指導をしていただきたいと思いますと考えている。

Q：NPOが一生懸命活動されているようだが、小学校や町会など他の地域の団体へどのように働きかけていて、どのような動きがみられるのか。

A：各団体が実施する町会行事においては、参加者が減少しており、実施することの情報も毎戸に伝わりにくくなっている。自分たちが住んでいる地域の現状が寂しいと感じており、何かやり方はないのかという話をしているところである。

【主な意見】

- ・地域ぐるみの行事を通して、自分たちの住む地域の活性化を図るという思いは理解できますが、勉強会から始めて地域の理解を深めたり、スタッフ側がノウハウを身に付けるなど、一步一步できる範囲から事業に取り組んでいただきたい。
- ・過去に1%システムに採択された鳥井野お山参詣実行委員会はお山参詣について記録をしながら事業を実施しているので、そのような団体と連携しながら事業を進めていただきたい。

【採択結果】

合計点 50.2 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	4.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	4.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.9
合計		50.2

【質疑応答（抜粋）】

Q：韓国語がわからないけれども、韓国文化に興味があるという人にも楽しんでいただけるような工夫などは考えているか。

A：参加者、観覧者の皆さんには、スピーチ内容について韓国語と日本語を対比させたパンフレットを配布して、意味を理解しながら楽しんでいただきたいと思います。

Q：韓国語を学んでいない人たちを巻き込むための工夫など、お考えのことがあれば教えてください。

A：韓国文化のパフォーマンス発表の場を作ることで、K-pop や韓国ドラマへ興味のある人などの来場を見込んでいる。また、韓国文化の紹介の場としてキムチ作り教室を開催するので、参加者には大会の宣伝をしていきたいと考えている。

Q：韓国からの留学生や弘前に在住している韓国の方が、この事業に参加することもあるのか。

A：弘前の勉強会に留学生が3人参加してくれている。市内に在住する韓国の方は、大会に直接関わってはいないが、通訳を探しているときに依頼したりすることがある。

【主な意見】

- ・これまでの大会継続や、参加者の増加に向けて工夫をされていることは評価できますが、本制度を活用する以上は、韓国語学習者以外の参加を促すため、周知方法や大会内容の工夫に努めていただきたい。
- ・企画書に記載されているインバウンドの話について、具体的な対策を考えるなど、そのあたりにももう少し重点をおいていただきたいと感じた。

【採択結果】

合計点 56.4 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	4.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.1
合 計		56.4

● 13 : 「ひろさき美術館 2」 / 弘前アートプロジェクト実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 展示場所について、普段オープンしていないところを来場者に見てもらいたいと思ったが、どこを展示場所として利用する予定か。

A : 展示内容については、作家と相談中である。展示場所については、館長室、図書室、婦人閲覧室、普通閲覧室、評議室を予定している。普段公開していない3階についても交渉したが、安全性の面で立ち入りが難しいということで断念した。

Q : ワークショップの具体的な内容を教えていただきたい。

A : 橋本氏には、10名程度を対象とした子ども向け版画作りを、開催期間中の日曜日に実施していただきたいと考えている。関氏には、5名くらいを対象とした製本作りを実施していただく予定である。斎藤氏は、開催期間中のワークショップは予定していないが、作品制作の段階から市民の方に手伝っていただきたいと考えている。

Q : 旧市立図書館内で事業を開催していることがわかるような工夫や、周辺及び弘前公園などに足を運んだ人を事業会場に誘導する仕組みなどは考えているか。

A : 本事業は菊ともみじ祭り期間に開催するため、現在、祭りのチラシ等に事業のことも掲載していただけないか交渉中である。また、開催場所周辺へのポスター掲示や、スタッフによる呼び込みを行いたいと考えている。

【主な意見】

- ・すぐ近くにある観光館を訪れた観光客にも、事業を実施していることを知ってもらえるように、観光館にポスターの掲示をお願いするなど、来場者を呼び込む努力をしていただきたい。

- ・市民でも旧市立図書館の中に入ったことがない人がいると思われるので、建物について再認識するきっかけになると思う。
- ・事業を継続していくことで、JR等のパンフレットにも取り上げられるようになれば、人の目に触れる機会が多くなり、弘前の観光につながることを期待される。

【採択結果】

合計点 70.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合計		70.5

● 17：コミュニティシネマ事業「harappa 映画館」／NPO法人 harappa

【質疑応答（抜粋）】

Q：中心市街地のにぎわい創出という点で、今回特に新しく始めようと考えている取り組みがあれば教えていただきたい。

A：新しい取り組みということでの企画には上っていないが、来場者へのアンケート内容として、例えば上映会前後に食事に行くかどうかなど、映画から街につながる質問も含めて、情報収集をしていきたいと考えている。

Q：対象が一部の人に限定されず、広く市民のための事業とするために、何か工夫していることがあれば教えていただきたい。

A：ヨーロッパ映画は市民から非常に支持されており、ぜひ上映して欲しいという声が多い。弘前に単館系の映画館が無くなってから見られなくなっていたような映画には、予想以上の来場者があり、市民がそのような映画を求めていたことがわかった。ただ、上映に当たっては、マニアックな映画ではなく、ある程度支持されて、新しい観客が増えるような映画を選定するよう心掛けている。

Q：事業に協賛する企業等の広告映像づくりについて、どの程度話が進んでいるか教えていただきたい。

A：昨年、実験的に静止画ではあるが広告映像を作っており、希望者には曲を付けるなどした。今年は、作製した広告映像を、ほかのイベントなどでPR映像として自由に利用できるようにしたいと考えている。

【主な意見】

- ・開催日を2回から3回に増やしたのであれば、3回のうち1回は一般にわかり易いテーマにするなど、本当に映画好きだけでなく観客も呼び込めるようなアイデアを考えていただきたい。
- ・弘前には、常設の映画館が1つしかなく、見たい映画が見られないという状況が生じることを考えると、この事業に対するニーズはあるものと考えられる。
- ・映画や音楽やアートなどの分野は、弘前が保ってきた文化のレベルを上げることにもつながると思うので、大いに進めていただきたい。

【採択結果】

合計点 66.2点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.2
合計		66.2

●10：いざ！我が町民（市民）を守ろう隊／栄町町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年に引き続き、今回も町会役員を中心とした訓練になるようだが、1人暮らしの高齢者など、実際に町民を巻き込んでの訓練は何年後を見込んでいるのか。

A：約1,200名の町民を全て巻き込んでの訓練は、役員が動きを理解した上で実施しないと混乱や事故を招きかねないと思っている。役員のほかに、町内の各班の世話役にも参加

してもらえように話をしており、10年に1度各世帯に割り当たることになっているので、仮にこの訓練を10年実施すると全世帯が訓練に参加したことになる。

Q：購入備品とそれらの保管場所についてお知らせいただきたい。

A：今年はリヤカー1台の購入を考えている。昨年購入した1台と合わせて、南北から人を運べるように必要最低限のスタンバイをしたいと思っている。購入備品は町民会館に保管しているが、災害時に備えて町会役員複数名が鍵を持っている。

【主な意見】

- ・町会役員が動きをマスターするに越したことはないが、災害時には、役員だけでなく、住民も指示を受けて動けるような訓練も必要だと思う。
- ・今年度は主な参加者が役員になるかもしれないが、38班から1人ずつ世話役が参加して、数年で一回りすることを見据えているのは非常に良いことだと思う。
- ・町民に対して、チラシを配布して終わりだともったいないので、見学だけではなく、炊き出しなど参加しやすいところだけでも参加してもらってもよいのではないかと思う。

【採択結果】

合計点 70.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.4
合計		70.2

●11. “わ”と“な”の生き生きサークル2 / “わ”と“な”の生き生きサークル実行委員会 【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年度、事業主体となっていた津軽保健生活協同組合のスタッフは、講師という立場での参加になるのか。

A：今年度は講師として依頼したいと思っている。病院スタッフに頼り続けず、一般の人

でもできるようなメニューに進化させたものを実施して、地域に根付かせていきたいと考えている。

Q：昨年の参加者が中心となって事業を進めていくようだが、昨年実施したことを薄れさせないように、運動の数値だけでなく、生活レベルで活用していくために、どのように取り組んでいこうと考えているか教えていただきたい。

A：1回のメニューの3分の2がバンドやタオルを使った運動、脳トレ、昔の遊びなど頭を使うような遊びを行う。参加した地域の人との結び付きも重要視しているので、残りの3分の1はおしゃべりの時間としている。

【主な意見】

- ・高齢者にとっては定期的に足を運ぶことも大事だと思うので、運動以外でも気軽に集まってきてもらえるような活動ができればいいと思う。
- ・地域で何かを行う時に、これまでのように町会や町会の民生委員だけで行っていくことが厳しい状況にある中で、多様な団体が地域の中に入っていきことはとても大事なことで、地域と連携・協力し合いながら事業を進めていただきたい。

【採択結果】

合計点 76.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合 計		76.9

● 25：すこやかセミナーの運営／弘前芸術鑑賞会

【質疑応答（抜粋）】

Q：会場について、詳細を教えていただきたい。

A：弘前芸術鑑賞会の事務所が会場で、40名程度の参加者には対応できる広さであり、

体操等もできる。トイレ等も完備しているので、高齢者でも安心して参加できる環境である。

Q：予算について、交通費や材料費が計上されていないが、不要か。

A：交流イベントの交通費については、協賛金等で賄う予定である。セミナーの講師は、基本的に市内講師をお願いするので、講師料に含めた形でお願いしている。材料費は参加者からの実費徴収となるので、計上は不要である。

【主な意見】

- ・今後も長く続けていくのであれば、費用対効果を見極めながら適正のところを探っていたきたい。
- ・行政で費用を工面して場所を用意するのも大事だけれど、類似事業でも選択肢が増えることで、参加費を払っても参加したいという高齢者が増えることも大事だと思う。
- ・選択肢が増えることは良いと思うが、自分1人できちんと過ごせるのであれば、事業に参加する必要がない人もいてもいいと思う。

【採択結果】

合計点 66.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.5
合計		66.5

●16：認知症カフェ／オリーブふれあい会

【質疑応答（抜粋）】

Q：ブログやFacebook等で周知をされているということだが、別の層の人にも情報が届くように、チラシなどの活用は考えているか。

A：あくまで認知症に特化したカフェでありたいと考えており、参加者を守るために、チ

ラシによる周知や、マスコミ取材等を行わないこととしている。

Q：認知症カフェは、いつから実施し、何人くらい利用しているのか。

A：新オレンジプランで地域貢献が求められることになったことから、平成27年8月からオープンしている。それ以前に、京都で認知症カフェを始めた教授の研修を受けており、自分たちの形に合ったやり方で始めることとし、1%システムを利用することで、さらに活動を広めることができるのではと思ったものである。平均10人前後利用しているものである。

【主な意見】

- ・最近、市内でも高齢者に対する施設が増えている中で、このような認知症カフェが出来ると、地域住民は安心して生活を送れると思う。
- ・認知症に特化することで、敷居が高くなる人もいるように感じた。もっといろいろな高齢者が集まって、みんなの中で生活しているということを確認しても良いと思った。
- ・カフェをやっていることが地域の人に認知されていないのはもったいないように感じたので、気楽に行ける場所があることを一般市民にも知ってもらえるといいと思った。

【採択結果】

合計点 62.2 点 \geq 60.0 点

※採択の基準を満たしているが、採択通知書送付以前に、県の補助金に申請するため、採択辞退の申し出があった。⇒採択件数に含めない。

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.3
合 計		62.2

●20：子育てが楽しくなるパパママ楽習会／子育てパパママ楽習会 運営委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：ふち楽習会について、子育て経験者がお話しても良いのではないかと思ったが、これも専門の講師にお願いするのか。

A：これまでに、専門の講師の話を聞いて実践してきた人や、理論について継続的に勉強されている人に講師をお願いしたいと考えている。内容としては、専門講師の話を聞く前の地ならしや、復習をしていきたいと思っている。

Q：楽習会の講師について、県内の人で子どもを良く育ててきた人は、暮らしていく知識も持っていると思うが、そのあたりはどのように考えているのか。

A：現状は専門講師をお願いしているが、特に固執しているわけではない。最終的なイメージとしては、子育ての経験などをシェアして、悩みなどを相談し合えるような場を運営できるようにできればベストだと思っている。

【主な意見】

- ・講演会では、講師を質問攻めにする人がいたりもするので、午前を無料とし、午後を有料としたのはうまいやり方だと思う。
- ・子育てというのは正解がなく、いろいろな選択肢が増えることは良いことだと思う。
- ・人件費の割合が高いように感じたが、これだけの費用を投じるのであれば、自分たちの中に知識を蓄えたり、多くの市民に広げていただきたい。

【採択結果】

合計点 62.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.8
合 計		62.0

6月17日審査結果（30事業のうち12事業）

採択とする事業	8事業
不採択とする事業	3事業
採択辞退	1事業

平成29年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成29年6月18日（日）

午前9時～午後5時

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員（事業番号28から）、齋藤（秀）委員、
兼平委員、
西川委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、
宮川委員、高森委員、木田委員
市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、福土主事、阿保主事、
神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

6月17日に引き続き審査

《審査内容》

●5：農園が社交場へ！！／北地区コミュニティ会議

【質疑応答（抜粋）】

Q：休憩所の工法について、転倒による事故が起こる可能性もあると思うが、安全面での配慮はどのように考えているか。

A：鉄パイプを抑えるようにU字型のフックを地面に打ち込むなどして、固定したいと考えている。屋根は取り外し可能なシートにして、暴風警報など、転倒の危険性がある場合には取り外す予定であり、風圧がかからず転倒の可能性を低くすることが出来ると思う。

Q：農園の運営については、何人くらいの人で、どのように分担しているのか。

A：現在は、主に2人のメンバーが中心となって運営している。行事を組み立てるとなるともう少し人手が必要になるので、町会やコミュニティと協力して、年間の計画を決めながら進めていく組織を作っていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・これまでの苦労を無駄にしないためにも、2、3人でやっていくには限界があると思うので、きちんとした組織を作って長期的に継続していただきたいと思う。
- ・休憩所の安全性については、十分考慮しながら事業を進めていただきたい。
- ・いろいろな人の手が入ることで大事にしようという思いが伝わり、また、共同作業によって人間関係も構築されている素晴らしい活動だと思う。

【採択結果】

合計点 76.2 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択(申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合 計		76.2

● 6 : 向外瀬町会 藩政時代へ旅する (パートⅡ) 開村誕生年祭 / 向外瀬町会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 集大成として開村誌の発行を予定しているようだが、いつ、どのような物を作成するのか教えていただきたい。

A : 年度内には発行する予定である。容量としてはB5より少し小さいサイズのもので、80ページを考えている。内容は、町会に眠っている古文書や、神社に置かれている古い絵馬などの歴史を追求して、年代など特定させていきたいと思っている。

Q : できるだけ多くの方が開村誌の作成に携わった痕跡を残すことで、多くの人に読んでもらえると思うが、皆が読みやすいような工夫などは考えているか。

A : 事業内でお宝探検を実施する予定がある。古老の人に案内していただきながら町会の裏道を歩いたりするので、その際に参加した子ども達にカメラを持たせて、写真を撮影していただく予定である。その写真を開村誌に掲載したいと思っている。

【主な意見】

- ・開村誌の内容を工夫したり、発刊後は子どもや次世代に情報や歴史を伝えていただければ、事業の効果が広がっていくと思われる。
- ・歴史調査だけでなく、町会の連携を深めることや、町会への愛着を持っていただくことを目的にしているということで、良い事業だと感じた。

【採択結果】

合計点 72.2 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合 計		72.2

● 4：りんごの里 東目屋親善ゲートボール大会／東目屋ゲートボール愛好会

【質疑応答（抜粋）】

Q：ゲートボールを通じた健康増進や、ゲートボール人口を増やすことなどといった観点から実施したいことがあれば教えていただきたい。

A：小学生を対象にゲートボールを楽しんでもらうような予定を立てている。これまでは老人クラブが行っていたが、老人クラブの力も弱まってきているので、愛好会で行うこととした。

Q：主催者と参加者だけで大会を賄うことは難しいのか。

A：過去18回はそのようにして開催してきた。ここ2、3年で高齢化に伴い愛好会会員が半減し、現時点では予算がなく、開催が難しい状況である。

【主な意見】

- ・地域の活性化やゲートボール人口を増やすことを目的に大会を実施するという事業内容は理解できますが、子どもたちが参加できるようなコーナーを設ける工夫や、地区内の町会から協力を得るようなことなども検討していただきたい。
- ・8月という農家の手が空く時期に楽しむのがゲートボールであるということで、町会みんなでゲートボールをやるということは評価できる。

【採択結果】

合計点 53.4 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.4
合 計		53.4

● 24 : ギネス記録も持つ!! 津軽の笛が大集合! 第5回 津軽笛博覧会

／津軽笛地域づくり実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 藤田記念庭園の入園料の有無と、雨天時のプレミアム席の有無についてお知らせいただきたい。

A : ワークショップ受講者は入園料を支払っていただくが、記念庭園の入場料が5時以降無料になるため、お月見コンサートのみの参加者は無料で観覧いただける。雨天時は観光館での開催となるため、プレミアム席の設定は考えていない。

【主な意見】

・特になし。

【採択結果】

合計点 80.4 点 \geq 60.0 点 ⇒ 採択 (申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		80.4

● 23 : 岩木山エコプロジェクト／岩木山観光協会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 1回あたりのゴミ回収量はどのくらいか。

A : 大きい袋で約2～3t と、土嚢袋で20～30個の他、冷蔵庫、ソファ、テレビなど形のあるものも多く回収している。

Q : 継続的に作業し続けてきた人たちが疲弊している中で、新しく参加してみたいというような声はあるのか。

A : 日本で最も美しい村に選定されたことで、町会長等との会議では、今後に向けた行動の在り方などが話になるが、現状は変化は見られず、実際の行動や、マナーを変えていくことは難しいと感じている。

【主な意見】

- ・弘前市で援助できる範囲内で続けていただけるのであれば、ボランティアの意志がある限りは、できる限り応援していきたい。
- ・この団体にただ丸投げするのではなく、できる限り負担を軽減して、継続していただく方法を考えていかなければいけないと感じた。
- ・市が処理すべきとか、県が処理すべきというわけではないが、まずはどうするかということを考えるための話し合いの場を作るという提案はしていく必要があると思う。

【採択結果】

合計点 84.2 点 \geq 60.0 点 ⇒ 採択 (申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.6
合計		84.2

● 28：焦点—弘前とかけて落語ととく、その団体とは—／弘前男女らくご振興協会

【質疑応答（抜粋）】

Q：前回の申請時との変更点を教えていただきたい。

A：まず、前回はターゲットを絞っておらず、伝えたいことが伝わらなかったもので、今回はターゲットを絞った。次に、コミュニケーション能力向上と情操教育への影響を混同させていたので、今回はしっかり分けたという2点が前回との大きな変更点である。

Q：全4回の講座で参加者は4回とも固定なのか。また、参加費は一律なのか。

A：基本的なところを抑えることを目的としているので、原則として4回とも参加していただきたいが、飛び込みで参加したいという人がいた場合は受け入れたいと思っている。参加費については、全4回参加してもしなくても一律1,000円とする。

Q：会場の選定理由をお知らせいただきたい。

A：他の会場も考えたが、民間の施設は使用料が高額で、また、過去に開催履歴がある会場は階段があり、高齢者には不便だと判断した。参画センターは公共の場であり、どんな人でも参加しやすいと思い、会場を選定した。

Q：参加者を募集する際に、学生の参加者は具体的にどのように募集するのか。

A：コミュニケーション技術の向上をアピールしていきたいと考えている。面接を含めてこれからの就職活動が不安だという声をよく耳にするので、コミュニケーション技術の向上について、プロの技術指導をいただけるということで、貴重な機会になると思う。

Q：この事業でいう「コミュニケーション技術」とは具体的にどのような技術か。

A：相手の話を聞く、相手のことを観察することを通して、相手を理解すること、また、相手のことを好意的に受け取ることだと考えている。

【主な意見】

- ・事業をPRする際には、ターゲットなど募集する対象が明確になるような周知方法を心がけていただきたい。
- ・チラシを1回目の開催に合わせてまくようだが、講座は数箇月にわたって開催されるので、分散して配布するなど、工夫していただきたい。
- ・途中参加の人にも対応できるよう、プログラムについては嘶家さんと話し合っていたきたい。
- ・人前で話すことが苦手な人も多くいると思うので、落語というくだけた楽しそうなイメージの中で、コミュニケーション技術の向上が図れるということで、参加者には何かのきっかけになると期待される。

【採択結果】

合計点 62.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.2
合計		62.2

● 21：青森サミット2017／ひろさきナラティブ.net

【質疑応答（抜粋）】

Q：地域包括ケアと地域おこし・まちづくりというテーマがあるが、どちらに重点をおいているのか。

A：関わり方は医療・福祉の地域包括ケアからになるが、突き詰めていくとまちづくりにつながるという風に考えており、どちらかに重点をおくというのではなく、バランスを取りながら進めていきたいと思っている。

Q：あおりサミットという大きなイベントを開催するということが、その後の小さな集まりなどは考えているか。

A：まず、開催前に2回ほどサミットに向けての勉強会の開催を予定している。具体的にはなっていないが、サミット終了後も何らかの形で継続していかなければいけないと考えている。

【主な意見】

- ・これまで、1%システムにも高齢者に関する事業などが増加しているが、自然に地域で抱えていけるのかというところが最終的には地域づくりにもつながっていくのだと思う。このような活動を行っている団体は他にないと思うので、貴重であり、ぜひ継続していただきたい。
- ・事業の関係者や専門職の人は参加すると思うが、一般の人にも参加していただけるように、興味を引くような告知方法などを工夫していただきたい。

【採択結果】

合計点 72.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		72.9

● 1：十腰内地区お山参詣実施事業／十腰内お山の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今回は、大人1人3,000円、子ども1人1,000円の参加費を徴収するということが、これまでもそのように実施してきたのか。

A：これまではほとんど会員の寄付で実施していたが、収入が不安定で、継続するためには参加費を徴収した方が良いのではないかという声もあり、1人当たりの額を計算して、

今回から参加費を徴収することとした。

Q：隊列が約100mにわたるということで、拡声器を購入する計画だが、全体の流れの統制をとるためにどのようにするのか。

A：トータルでは100mになるが、2列になるので、人の隊列は約50mになる見込みである。統制については、町内に防犯の組織があり、その人たちが隊列の前後についてコントロールするようにしている。

Q：昨年の参加者の内訳として、中高生の参加が無かったようだが、その世代の参加を促すために、具体的に考えていることがあればお知らせいただきたい。

A：お山参詣の開催日は旧暦で動くため、必ずしも休日になるとは限らず、中高生が平日に参加することは難しい状況である。

【主な意見】

- ・古き良き伝統であり、世代交代もされているようなので、是非これからも引き継いでいていただきたい。
- ・これまでのやり方を見直し、新しくどう変わろうか、これからどう運営していこうかというところが明確化されており、参加者の呼び込みにも注力していただくことで、次のステップに進めるのではないかと思う。

【採択結果】

合計点 74.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合 計		74.5

● 7：十面沢お山の会（お山参詣）／十面沢お山の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：準備の段階から子どもたちを巻き込んで事業を進めていくということだが、事業当日、子ども達は参加できるのか。

A：事業当日は平日なので、行事の開催に当たり、公欠にしていただけないかという依頼文書をもって学校側へ説明に行く。公欠になれば参加してもらえるが、ならなければ参加が難しい場合もある。

【主な意見】

- ・将来を担う子供たちを準備の段階から巻き込み、伝承していくという心意気を感じた。ぜひ、子ども達をうまく巻き込んでいただきたい。

【採択結果】

合計点 77.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		77.1

● 19：狼森町会史発刊／狼森町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：作成する町会史の概要についてお知らせいただきたい。

A：B5版、約150ページで、内容は町会、陸羯南の保健館、大和沢小学校の3部構成を予定している。

Q：町会史は町会の編集委員会で編集するということだが、レイアウトなどのデザイン面はどのように考えているか。

A：編集委員会のメンバーは記念誌等の作成経験がある人が多く、編集に当たっては問題

ないと考えている。その他、レイアウトについては印刷会社とも相談しながら進めていきたいと思っている。

【主な意見】

- ・伝承されていくべきデータが無くなってしまうと、歴史自体が消滅してしまうこともあるので、後世に伝えるための記録としてまとめることは大事だと思う。

【採択結果】

合計点 73.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合計		73.3

● 18 : CAPを子ども達に届けよう 副題「暴力から自分を守る力を子どもに！」

／あおもりCAPの会 中弘南黒地区

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 開催日は、休日か。

A : 今回は学校の長期休暇の間に行いたいと考えている。これまで、土日や平日の夕方等を設定して行ってきたが、時間が取れないという声が聞かれたので、長期休暇を開催希望日として講師との日程調整を進めている。

Q : 2日間の講演を1日目は教職員と教育行政関係者、2日目は保護者と地域の大人と分ける理由をお知らせいただきたい。

A : 分ける必要がないという考えもあったが、暴力や虐待を受けているという問題を取り扱いやすくするためには、立場を分けて、できる限り小さい範囲で行った方が、それぞれ

の参加者が自分の体験を言い出しやすかったため、今回は対象を分けることとした。

【主な意見】

- ・教育関係者は1、2月が忙しくなる傾向があるので、前半の対象を教育関係者として、後半の対象を保護者にする、先生方から親御さんへの周知も可能になり、集客も期待できるのではないかと思う。
- ・子どもたちに対する虐待は種々様々で非常に難しい問題であり、学校や団体だけに任せるのではなく、地域コミュニティなども関わっていく必要があると思う。

【採択結果】

合計点 72.0 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合 計		72.0

6月18日審査結果 (30事業のうち11事業)

採択とする事業 10事業
不採択とする事業 1事業

平成29年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成29年6月19日（月）

午後1時30分～午後6時

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、安田委員、鴻野委員、兼平委員、西川委員、
花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、前田委員、
木田委員
市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、福土主事、阿保主事、
神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 6月17日・18日に引き続き審査

《審査内容》

●27：国際交流事業（1）国際交流 夏祭り（2）国際交流 餅つきフェスティバル

／桔梗野町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：留学生が来弘してすぐに交流する場があると効果が大きいように感じたが、留学生がたくさん来る時期に何か動きはあるのか。

A：短期留学の学生もいたり、来弘する留学生が多い時期が把握できておらず、歓迎するための事業は行っていないが、留学生が帰る時に町会として卒業式に出席している。

Q：町会では、積極的に留学生と交流したいという人が多いのか、最低限現状を維持したいという人が多いのか。

A：やはり交流したいという思いで交流事業を行っており、一步でも二歩でも進めていかないと、この事業は成功しないと思っている。この事業のほかに、留学生のみなさんとも日常の挨拶をしたり、住民活動に少しでも参加してもらおうといったことからやっていきたいと思う。

Q：留学生が住んでいる国際交流会館の中で、事業のチラシを掲示することはできるのか。

A：これまでも、夏祭り等のポスターを会館内に貼っていただいております、それを見た留学生が参加している。

【主な意見】

- ・最近弘前でもインバウンドということで、海外から弘前に来てもらえるような活動が出てきたが、20年前から留学生との交流を続けてきているということ自体に意味があ

り、成果があると思う。

- ・交流が目的なので、留学生に日本の文化を知ってもらっただけでなく、例えば料理教室など、町会の人たちが留学生の母国のことを教えてもらうようになれば、より交流が進んでいくと感じた。
- ・留学生は日本人と日本語で話す場や、自分たちのことを話す場を少なからず求めていると思うので、より密接なかかわり合いができるような雰囲気づくりをしていただきたい。

【採択結果】

合計点 68.0 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択(申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.5
合 計		68.0

● 15 : 弘前城の何でも歴史名人になろう / 南大町町会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 育成委員が中心になっての活動だが、町会からこの事業に対する補助はあるのか。

A : この事業に対する補助はないが、毎年行っている夏祭りの納涼祭りには、子ども会に対して補助している。

Q : 町会では、この事業に対して子どもたちがどのくらいニーズを感じていると捉えているか教えていただきたい。

A : 昨年参加した子どもたちに聞いたところ、面白いテーマだということで、自主的に参加したとのことだった。子どもたちにとっては、学校で習わないことがたくさんあったので、もっと早くこのような機会を作ってほしかったという感想をもらっている。

【主な意見】

- ・子どもたちの参加を増やすために、子どもたちが参加しやすい日取りや時間帯に合わせたり、子どもたちが聴きたい内容を事前に調査して、その内容を当日の話の中に盛り込むなどの工夫をしていただきたい。
- ・あらかじめ勉強するテーマのことを自分たちで勉強してみたり、当日に子どもたちに写真を撮ってもらい、日を改めてみんなで壁新聞にまとめて学校等に貼ってもらうなど、参加者の身になるようことをぜひ行っていただきたい。
- ・チラシを作る際に、「弘前の歴史」という固い言葉ではなく、「探検」や「秘密を探る」といった言葉を使って子どもたちの興味を引いたり、事業の内容の中にもクイズを入れ込んだりして、あまり固くなりすぎないように工夫していただきたい。

【採択結果】

合計点 60.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.2
合 計		60.8

● 26 : S L 4 8 6 4 0 号機の保存活動及び S L 鉄道教室

／特定非営利活動法人 五能線活性化倶楽部

【質疑応答（抜粋）】

Q : S L は野ざらしになって、イベント以外の日にも、誰でも見られる状態のようだが、鰯ヶ沢に置いていた時のように、保存状態が悪化することはないのか。

A : 夏の間は多くの人に S L を見てもらいたいため、野ざらしになっているが、冬はシートをかけて雪対策を行っている。鰯ヶ沢では、海のそばに置いてあったので、塩害でボロボロだった。弘前に移動させてから、中に入っている塩分を取り除くために塗装を剥いだりしながら少しずつ修理をしている。

Q : この S L を弘前の観光の目玉の一つとして修理しようとしているのか、産業遺産とし

て残したくて修理したいのか、どちらに主眼を置いているか教えていただきたい。

A：産業遺産として残したいと思っている。ただ、観光資源としての性格がないと、いくら良いものでも、関心がある人がいないと遺産として残す意味がないと思っている。一般的な観光というのとは違い、我々はターゲットを絞って観光客を誘致しようと考えている。

Q：会全体の今後の展開と、活動の果てにある最大の目標をどのように考えているか教えていただきたい。

A：かなり難しいことだが、最大の目標は、修理等に一番お金がかかるボイラーがしっかりしているので、SLを完全に復活させて五能線を走らせることである。また、鉄道好きの人たちは強い情報ネットワークを持っているので、敷地にSLを置かせてもらっている弘南鉄道と協議しながら新しい企画も考えていきたい。

Q：今回補助金を活用して修理することで、何年くらい持つのか。

A：塩害がどれくらい残っているかや、メンテナンスのパターンがわかってきたので、5年に1回くらいの間隔で大きな修理をしていけばいいと思う。

【主な意見】

- ・鱒ヶ沢に置いてあった頃のSLの姿を知っているので、ここまで修理したことに感心している。普段は自分たちの会費で修理をしていて、5年に1度の大きな修理に援助をお願いしたいということなので、応援したい。
- ・こちらから情報を流すことで、遠方から鉄道好きの人がSLの修理を手伝いに来て、弘前を盛り上げてくれていることがわかったので、このような団体の活動に市側も便乗することで、鉄道好きな人の集客につながると思う。

【採択結果】

合計点 67.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.5
合計		67.0

● 30：弘前市の将来を考えるフォーラム テーマ：人口減少時代の地域における権利擁護のしくみ／一般社団法人権利擁護あおい森ねっと

【質疑応答（抜粋）】

Q：市民の中でも「権利擁護」に対する認識の差があると思うので、まずは専門の人に参加してもらうことに力を入れていくということは考えられるか。

A：「権利擁護」とポスター等に掲載されても一般の人はピンとこないと思うので、各団体に直接声掛けして参加を募りたい。また、市民が活躍できる場を広域に作っていくため、この事業をきっかけに流れを作っていきたい。

Q：一般市民への啓発と専門の人のネットワークづくりを並行して進めていかないといけないうらい、権利擁護の問題は差し迫っているのか。

A：現場で仕事をしていると、特にそのように感じる。「もっと早くわかっていれば…」となる前に気づき、みんなで見守りできる体制を作っていくことが大事だと思う。

【主な意見】

- ・一般の人が聴きやすい内容の時間帯等の設定や、言葉の使い方を工夫して、権利擁護に興味を持ってもらって、いろんな人に参加してもらえるようにしていただきたい。
- ・市や包括支援センター、社会福祉協議会のバックアップ体制や、地域との連携を模索している福祉関連の団体のネットワークづくりをしていく流れを作るように頑張りたい。
- ・今は専門の人が多く参加するかもしれないが、専門の人が参加したことで得られた知識が、参加していない一般市民に還元されることになるので、将来的に大きな意義があると思う。

【採択結果】

合計点 83.7 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合 計		83.7

● 8 : 「第4回弘前城Q&R」開催事業／弘前城Q&R実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 今回で4回目の開催となるが、運営の中核となり得る人材は育っているか。

A : 社会人スタッフのほかに、学生も経験を積んで中核のメンバーになり、弘前に残ってくれればと考えているが、就職等で県外に引っ越してしまうこともあるので、卒業生が抜けたら新しいメンバーが入ってくるような形でやっていければと思う。いずれ、県外に引っ越した実行委員メンバーの地域とつながりを持って企画できるようになれば嬉しい。

Q : 企業協賛の依頼の仕方について教えていただきたい。

A : 去年は、プログラムに企業名を掲載するかたちと、賞品の協賛というかたちがあった。

Q : 小学生版と大人版で、日にちを分けたほうが良いと判断した理由を教えていただきたい。

A : 去年は1日だけで実施してみたが、準備のため集合時間が早朝となり、朝露で使うものが濡れてしまうということもあった。また、ボランティアを募集した時も、半日のみ参加できるという応募者が多かったことから、ボランティアの人の参加しやすさを考慮した。

【主な意見】

- ・ボランティア機会の創出や地域人材の育成という目的にとっても期待している。
- ・長くイベントを続けていくうえで、個人負担と団体負担の区別は明確にすべきだということも理解できるので、予算を立てる時に、去年の決算等を参考にしながら、もう少し

細かく計画し、より質の高い事業にしていきたい。

- ・このイベントに関わりたいから弘前に残りたいという人が1人でも出てくるように頑張っていたきたい。

【採択結果】

合計点 73.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合 計		73.8

● 22 : 「アレッズわくわくパーク」事業

／HIROSAKI 市民球団プロジェクト 弘前アレッズ

【質疑応答 (抜粋)】

Q : この事業を「スポーツ少年団に加入する前のワンステップ」と考えているが、スポーツ少年団との関わり方をどのように考えているか教えていただきたい。

A : 小学4年生から6年生までで、スポーツ少年団に馴染めなくて参加できない子どもたちを受け入れることと、小学1年生から3年生までで、野球の楽しさをまだ知らない子どもたちに、野球を好きになってもらえるような方法を動画等で紹介し、地域のスポーツ少年団の手本になるような運営ができればと考えている。

Q : 参加者の目標人数を25人としているが、それ以上応募があった場合の受け入れ態勢について教えていただきたい。

A : 現在のスタッフの人数から、30人以上受け入れられると考えているが、その分用品が必要になるので、費用が大きくなることも考えられる。

Q : 次年度以降、参加人数が増えた場合などに秋までではなく、冬期間にもできるようなメニューを作っていくことも考えられるか。

A：今年やってみて、冬期間も室内で続けたいという要望があれば、継続してやっていきたい。1回目の参加は無料体験会というかたちで募集しているので、随時参加してもらいたい。

【主な意見】

- ・楽しみながらスポーツをしたいという子どもにとって、スポーツ少年団だとハードルが高く感じてしまう可能性もあるが、この事業があることで、子どもの選択の余地が広がると思うので良いと思う。
- ・集団で、外で遊ぶ機会が少なくなっている中、スポーツを楽しくやる場ができることで、スポーツ少年団に入りたくなる子も出てくると思う。
- ・小学1年生から部活に入ることができる小学校もあるので、そのような学校の動きも見極めながら活動していただきたい。

【採択結果】

合計点 72.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合 計		72.7

● 12：DOG FES IWAKI 2017/DOG FES IWAKI 実行委員会
【質疑応答（抜粋）】

Q：弘前のまちなかにある公園はペットが中に入れなかったり、入れたとしても舗装部分しか散歩できないことになっているが、弘前はペットの散歩という面で閉鎖的なのか。

A：全国的に珍しい地域だと思う。ほかの地域は公園に入る・入らないということではなく、公園内を散歩したときのケアをどうするかということの問題にしている。

Q：ペットとペットの飼い主のマナー改善という点に補助金を活用することについて、素

朴な疑問を持つ人もいないのではないかと感じたが、団体の考えを教えていただきたい。

A：地域でマナーが悪い人がいるという話を聞いた中で、飼い主が作り出している問題を愛犬家の立場として解決できるようにしていきたいと思っている。地域の問題に対して、市とつながりを持って臨むためにも、1%システムを活用してまずは認知してもらうことを目指したいと考えている。

Q：予算では、出店と協賛による収入を昨年と同じくらいの額で計上しているが、現時点では、昨年の収入額に到達する感触はあるか。

A：ほかのイベントを開催している人と話をしながら、昨年くらいの協賛金を集めたいと思っている。また、出店も昨年よりも少し増やせるのではないかと考えている。

【主な意見】

- ・今は人と犬の関係が近くなり、家族や友人のようになってきている。団体は、愛犬家として飼い主のマナー改善を自分たちの問題として捉え、信念を持ってやろうとしているので、このような補助金の使い方も必要だと思う。
- ・大きなイベントの実績がある団体と情報交換をして、運営やスポンサーの付け方を学ぶことと、運営ボランティアやスタッフを募集するようなチラシを配ったりして、スタッフを確保することを並行しながら進めていただきたい。
- ・高齢で、犬と一緒に会場に行きたくても行けないような人もたくさんいると思うので、送迎などの対策を考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 65.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.0
合 計		65.7

6月19日審査結果（30事業のうち7事業）

採択とする事業	7事業
不採択とする事業	0事業

2次募集事業の審査結果（30事業）6月17日～19日審査合計

採択とする事業	25事業
不採択とする事業	4事業
採択辞退事業	1事業